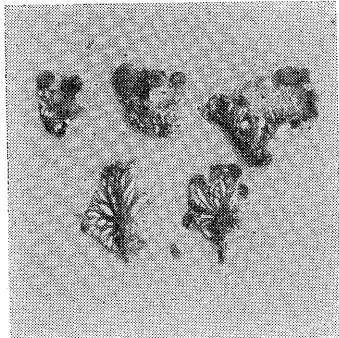
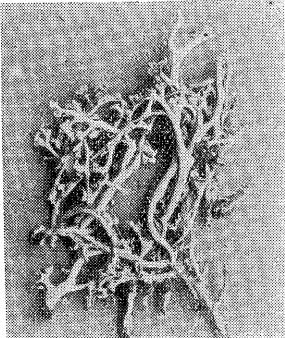


○金峯山の地衣 2種 (黒川 道) Syo KUROKAWA: Two lichens collected in Mt. Kimpū, prov. Kai

昨年8月、甲州北巨摩郡増富村金山から金峯山に登る機会を得たが、この時採集した地衣2種を報告する。一つはヒメツメゴケ *Peltigera venosa* (L.) Baumg. で、これは



左. ヒメツメゴケ *Peltigera venosa* (L.) Baumg. (1/1)



右. ウスキエイランタイ *Cetraria cucullata* (Bell.) Ach. (ca. 1/1)

従来日本では八ヶ岳・立山・富士山・利尻島に産するとされているが金峯山、金山峰附近、標高約1,600mの地点でこれを採集した。他の一つのウスキエイランタイ *Cetraria cucullata* (Bell.) Ach. は決して珍種とは

云えないが奥秩父の産はまだ報告がなかった。本州の他の高山に於ける場合と同様僅に数本ずつ、あちらこちらに生ずるに過ぎず、すべて子器を着けていない。奥秩父では金峯山頂上附近以外には産しないようだ。

□今堀宏三: 日本産輪藻類總説 Kozo IMAHORI: Ecology, phytogeography and taxonomy of the Japanese Charophyta

本誌6: 369-402(昭和4年)に牧野先生が「何故に我が日本産シャヂクモ科植物の品種を研究せざる乎」の題で Allen 氏の図を転載して専門研究者の出るのを待望されたが、その後我が国に2人の専門家を得たのは幸であった。その一人、今堀博士は既知40種の所を本書によつて, *Nitella*, 47, *Tolypella* 1, *Chara* 8, 計56種を認めた。総論篇には研究史、分布、生態(湖沼学的要素)、利用、分類系、採集及び標本製作法がある。日本の種類数は全世界の1/9を占め甚が多いこと、約半分は固有種であること、但しこれは中国大陆の研究がすすめば減少するであろうと述べている。

各論篇にはKeyの他に各属、各種について文献、記相文、著者による図、分布図があり、この中著者の発見になる *Tolypella* フラスモダマシ属は注目に値する。図の多くは巻末の41枚の plate におさめられている。唯2種著者に採集されていないものには図がない。将来の再発見によつて研究が完全になることが待たれる。巻尾に引用論文の目録、術語解説があり、全体に編集がゆきとどいて親切である。英文をもととして簡単な和文を併記し、内外の学者を益する所が極めて多いと思われる。(pl. 41を含めて pp. 234 ¥1000, 金沢大学理学部植物学教室発行, 丸善扱) (津山尙)